

# 秋田県埋蔵文化財センター年報

35

平成28年度

2017・6

秋田県埋蔵文化財センター

シンボルマークは、北秋田市白坂（しろざか）遺跡出土の  
「岩佩」です。  
縄文時代晩期初頭、1992年8月発見、高さ7cm、凝灰岩。

## 序

平成28年度は、秋田県埋蔵文化財センター開設35周年でありました。それは単に星霜を重ねて区切りの年であることにとどまらず、昭和56年10月の開設當時に採用された職員が前年度末に退職を迎える大きな節目でもありました。

いわゆる草分けとしての第一世代が一線を退き、“あきた埋文”は新たな時代に入ったと言えるのかもしれません。

開設当初からの発掘調査遺跡を周年記念誌や年報で辿ると、秋田県における開発の歴史とともに県内各地で発掘調査を行った職員の姿が目に浮かびます。

草創期の調査原因は東北縦貫自動車道から国営能代開拓や県立中央公園、そして七曲工業団地と続きます。昭和62、63年には東北横断道で調査面積が初めて10万m<sup>2</sup>を超みました。平成に入るとふるさと村や秋田外環状も始まりますが、調査はピーク時の1/3から半分程度になります。その後、森吉山ダムと日本海沿岸道で平成10年から7年連続で再び10万m<sup>2</sup>を超えます。平成15年の調査遺跡数31、平成11年の調査面積168,940m<sup>2</sup>が記録です。平成17年以降は大型の開発事業も落ち着き、ここ10年の平均調査面積は約2万m<sup>2</sup>となっています。

調査面積と職員数の相関はありますが、昭和63年や平成11年の多忙さはどうだったでしょう。調査、整理、報告書の作成と年間を通してフル稼働の状態にありながら、歴史を解明する喜びと埋蔵文化財を守り伝える使命感によって仕事に向き合っていた諸先輩には敬意を抱かずにはいられません。お陰で、それまで知り得なかった秋田に関する貴重な、そして膨大な資料が蓄積されました。

今年度は、新規採用の3名の文化財主事を迎えて新たな気持ちで発掘現場に向かい、整理作業を進め、報告書等の刊行物を発行することができました。

また、所蔵資料を活用した文化財保護の普及啓発事業多くの参加者を得て盛会裡に終了できました。セカンドスクール的利用者数は前年比43%の伸びとなりました。新年度はさらに工夫改善を図った事業企画で、参加者の満足度を高めていきたいと考えております。

本書をご高覧いただき、ご指導、ご鞭撻をいただければ幸いです。

平成29年3月

秋田県埋蔵文化財センター

所長 櫻田 博憲

# 目 次

序	
目次	
I 治革	1
II 組織・施設	1
III 平成28年度の歩み	2
IV 事業の概要	3
1 発掘調査	3
2 確認調査	3
3 埋蔵文化財発掘調査	4
(1) 平成28年度秋田県内発掘調査遺跡	4
(2) 発掘調査概要	6
トクラ遺跡	6
堤沢山遺跡	8
片貝遺跡	10
町村Ⅱ遺跡	12
4 刊行物一覧	14
5 活用・普及事業	16
(1) 秋田県埋蔵文化財発掘調査報告会	16
(2) 遺跡見学会	17
(3) セカンドスクールの利用	18
(4) 企画展	20
(5) 講演会	21
(6) あきた埋文考古学セミナー	22
(7) あきた埋文出張展示	23
(8) 古代発見！バズツアーア	26
(9) 共催・機関連携等による普及事業	28
①農業科学館まつり	28
②土器に生ける秋の草花展	28
③あきた県庁出前講座	29
④あきたスマートカレッジ連携講座「発掘！考古ゼミ」	30
⑤払田柵跡古代体験フェス2016	30
⑥ふるさと発掘in大館2016	31
⑦秋田県シルバー人材センター連合会「大館市遺跡発掘補助員講習」	31
(10) その他	32
①所蔵資料・古代体験キット・ビデオの貸し出し実績	32
②センター施設の開放と展示	32
③図書整理・図書一般公開	32
(11) 講演・研究論文等	33
6 運営協議会	34
V 平成28年度研修事業	37
VI 職員名簿	39
奥付	

## I 沿革

昭和55年2月	秋田県埋蔵文化財センター設立計画公表
昭和55年10月26日	建設工事開始
昭和56年8月31日	センター、第1収蔵庫完成
昭和56年10月1日	設置条例施行、職員発令、業務開始
昭和56年11月2日	落成記念式典挙行
平成5年1月	第2収蔵庫完成
平成10年4月2日	鷹巣町に秋田北分室開設
平成11年12月20日	秋田市に秋田整理室開設
平成12年4月4日	秋田整理室が秋田中央分室となる
平成13年4月2日	機構改革により南調査課、北調査課、中央調査課の3課体制となる
平成13年6月20日	秋田県甘瀬省文化交流事業により交流員の相互交流開始
平成14年3月2日	秋田県埋蔵文化財センター設立20周年記念式典挙行
平成15年10月17日	秋田県甘瀬省文化交流事業磨嘴子遺跡合同発掘調査開始
平成15年10月30日	センター屋根、外壁、内部大規模改修工事
平成17年4月1日	男鹿市に中央調査課男鹿整理収蔵室開設
平成20年3月31日	北調査課、中央調査課閉課
平成20年4月1日	機構改革により総務班・調査班・資料管理活用班・中央調査班の4班体制となる。
平成22年7月1日	秋田市に中央調査班移転
平成24年3月6日	秋田県埋蔵文化財センター設立30周年記念式典挙行
平成28年9月4日	秋田県埋蔵文化財センター設立35周年記念講演会開催

## II 組織・施設

### 1 組織



### 2 施設の概要

#### 本所(総務班・調査班・資料管理活用班)

所在地 〒014-0802 秋田県大仙市払田字牛嶋20  
TEL 0187-69-3331 FAX 0187-69-3330

敷地面積	6,962.000m <sup>2</sup>
本所建物	鉄筋コンクリート2階建
第1収蔵庫	鉄骨造平屋建
第2収蔵庫	鉄骨造平屋建
電気・ポンプ室	平屋建

#### 中央調査班

所在地 〒010-1621 秋田県秋田市新屋栗田町11-1  
TEL 018-893-3901 FAX 018-893-3899  
建物 鉄筋コンクリート平屋建 2,141.000m<sup>2</sup>

#### 男鹿収蔵庫

所在地 〒010-0502 秋田県男鹿市船川港比詰字餅ヶ沢200  
敷地面積 55,521.000m<sup>2</sup>  
建物 鉄筋コンクリート3階建 7,524.360m<sup>2</sup>

### III 平成28年度の歩み

#### 【平成28年】

- 4月1日 新任式(本所、中央調査班)
- 5日 第1回全体職員会(本所)
- 9日 企画展『頬田の原風景』第Ⅰ期「考古学で巡る鳥海山麓、にかほと由利本荘」(～8/28、本所展示室)
- 10日 平成27年度秋田県内発掘調査成果展閉幕(3/15～、秋田県生涯学習センター)
- 5月16日 東成瀬村トカラ遺跡発掘調査開始(～10/28)  
大館市片貝遺跡調査開始(～9/9)
- 6月15日 第1回埋蔵文化財センター運営協議会(本所)
- 18日 第1回あきた埋文出張展示『秋田平野の縄文文化』(～8/18、秋田県立図書館)  
片貝遺跡発掘調査速報展(～10/10、大館郷土博物館)
- 20日 五城目町町村Ⅱ・Ⅲ遺跡確認調査開始(～7/4)
- 7月4日 由利本荘市堤沢山遺跡調査開始(～8/26)
- 29日 第2回全体職員会(本所)、埋蔵文化財センター職員技術研修会(払田柵跡第150次調査区)
- 30日 第1回あきた埋文考古学セミナー「縄文時代は平等な社会か？否か？」(秋田県立図書館)
- 8月6日 片貝遺跡見学会
- 9月3日 企画展『頬田の原風景』第Ⅱ期「考古学で巡る秋田・男鹿・八郎潟周辺」(～H29 3/12、本所展示室)
- 4日 秋田県埋蔵文化財センター開設35周年記念講演会(県庁第二庁舎)
- 9日 五城目町町村Ⅱ遺跡調査開始(～11/28)
- 15日 由利本荘市坪淵遺跡確認調査
- 17日 第2回あきた埋文出張展示『鳥海山麓、日本海沿岸部の縄文文化－縄文時代の由利本荘市と遊佐町－』(～11/13、由利本荘市修身體)
- 第2回あきた埋文考古学セミナー『鳥海山麓、日本海沿岸部の縄文文化－縄文時代の由利本荘市と遊佐町－』(由利本荘市カダーレ)
- 21日 第1回古代発見！バスツアー（にかほ・由利本荘コース）
- 22日 第3回あきた埋文出張展示『小谷地理没家屋とは何だったのか？』(～10/30、男鹿市ジョバーカー学習センター)
- 27日 第2回古代発見！バスツアー（にかほ・由利本荘コース）
- 30日 第3回古代発見！バスツアー（にかほ・由利本荘コース）
- 10月4日 第4回古代発見！バスツアー（男鹿コース）
- 6日 第5回古代発見！バスツアー（男鹿コース）
- 9日 トカラ遺跡見学会
- 12日 第6回古代発見！バスツアー（男鹿コース）
- 13日 淏上市手の上遺跡確認調査
- 17日 能代市茱萸ノ木遺跡確認調査開始(～11/2)
- 18日 大館市片貝家ノ下遺跡確認調査開始(～11/17)
- 22日 第3回あきた埋文考古学セミナー『小谷地理没家屋とは何だったのか？』(男鹿市ジョバーカー学習センター)
- 10月28日 町村Ⅱ遺跡現地公開

- 11月13日 片貝家ノ下遺跡見学会  
 15日 秋田市大巻Ⅰ遺跡確認調査開始(～12/7)  
 12月2日 秋田市大巻Ⅱ遺跡確認調査開始(～12/7)
- 【平成29年】  
 2月8日 第2回埋蔵文化財センター運営協議会(本所)  
 3月2日 第4回あきた埋文出張展示『時をかける 片貝家ノ下遺跡×栗田の縄文プロジェクト』  
 (～3/7 秋田県立美術館)  
 12日 平成28年度秋田県埋蔵文化財発掘調査報告会(秋田県生涯学習センター)  
 14日 平成28年度秋田県発掘調査成果展(～4/11 秋田県生涯学習センター)  
 24日 第3回全体職員会(本所)  
 31日 離任式(本所、中央調査班)

## IV 事業の概要

### 1 発掘調査

平成28年度に秋田県埋蔵文化財センターが行った各事業別の発掘調査は以下のとおりである。

国土交通省関係

- 成瀬ダム建設事業：トクラ遺跡
- 日本海沿岸東北自動車道(本荘～岩城)付加車線工事：堤沢山遺跡

秋田県産業労働部関係

- 大館工業団地造成事業：片貝遺跡

秋田県建設交通部関係

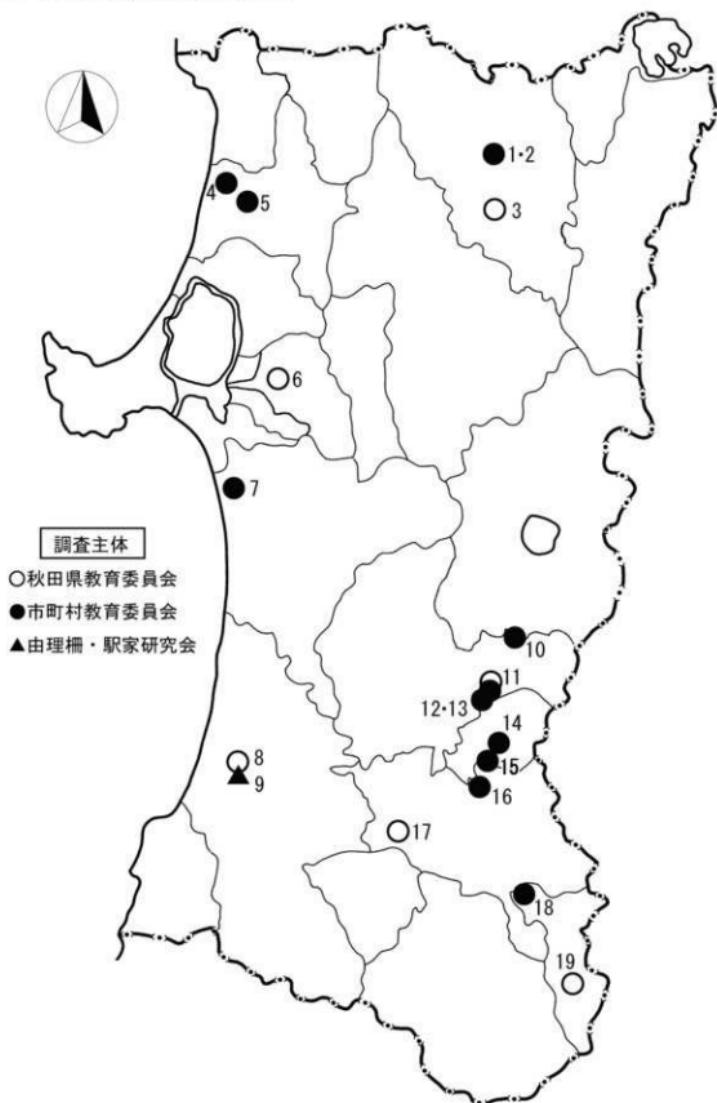
- 主要地方道秋田八郎潟線建設事業：町村Ⅱ遺跡

### 2 確認調査

	事業名	遺跡名・所在地	調査期間	調査担当
1	主要地方道秋田八郎潟線建設事業	町村Ⅱ遺跡 (五城目町)	6月20日～ 7月4日	村上義直 乙戸 崇
2	主要地方道秋田八郎潟線建設事業	町村Ⅲ遺跡 (五城目町)	6月20日～ 7月4日	村上義直 乙戸 崇
3	地方道路等整備工事国道108号 (矢ノ本工区)	坪瀬遺跡 (由利本荘市)	9月15日	谷地 薫 巴 亜子
4	広域河川改修工事(豊川)	手の上遺跡 (潟上市)	10月13日	谷地 薫 巴 亜子
5	通常砂防工事(オンデの沢)事業	茱萸ノ木遺跡 (能代市)	10月17日～ 11月2日	関向昌之 加藤朋夏
6	大館工業団地造成事業	片貝家ノ下遺跡 (大館市)	10月18日～ 11月22日	村上義直 小山美紀
7	雄物川中流部河川改修工事	大巻Ⅰ遺跡 (秋田市)	11月15日～ 12月7日	谷地 薫 利部 修 榮 一郎 安田 創
8	雄物川中流部河川改修工事	大巻Ⅱ遺跡 (秋田市)	12月2日～ 12月7日	谷地 薫 利部 修 榮 一郎 安田 創

### 3 埋蔵文化財発掘調査

#### (1) 平成28年度秋田県内発掘調査遺跡



平成28年度県内発掘調査遺跡位置図

平成28年度県内発掘調査遺跡一覧表

No.	道路名	所在地	調査期間	調査面積 (m <sup>2</sup> )	調査主体者	事業名等	主な時代・性格
1	大館城跡 (三の丸)	大館市三の丸	5/31 ~ 7/9	180	大館市教育委員会	個人住宅建設	近世：城館跡
2	大館城跡 (二の丸)	大館市字中城	6/1 ~ 11/30	1400	大館市教育委員会	市庁舎建設事業	近世：城館跡
3	片貝遺跡	大館市北内町字子中台	5/16 ~ 9/9	6300	秋田県教育委員会	大館工業団地造成事業	绳文・平安：狩獵場跡・集落跡
4	平影野遺跡	能代市向能代字平影野	8/30 ~ 9/9	100	能代市教育委員会	個人住宅建設	绳文・平安：集落跡
5	史跡檜山安東氏城跡（檜山城跡）	能代市檜山字古城、大間木	6/13 ~ 9/14	134	能代市教育委員会	学術調査	中世・城館跡
6	町村Ⅱ遺跡	五城目町馬場目	9/9 ~ 11/28	1300	秋田県教育委員会	主要地方道秋田八郎潟線（町村上区）整備工事	绳文・近世
7	史跡秋田城跡 (第107次)	秋田市寺内大畑	5/16 ~ 9/21	422	秋田市教育委員会	学術調査	奈良・平安：城柵官衙跡
8	堤沢山遺跡	由利本荘市川口字大学堤沢山	7/4 ~ 8/26	400	秋田県教育委員会	日本海沿岸東北自動車道（本荘～岩城）付加車線工事	中世：生産遺跡
9	土谷白山遺跡	由利本荘市土谷字小深田	5/7 ~ 5/22	90	由理権・聚家研究会	学術調査	绳文・平安：散布地・集落跡
10	伝次郎塙遺跡	大仙市大神底字前田	4/20 ~ 6/10	900	大仙市教育委員会	ほ塙整備事業	绳文：集落跡
11	史跡払田柵跡 (第150次)	大仙市払田字仲谷地	6/13 ~ 8/10	193	秋田県教育委員会	学術調査	平安：城柵官衙跡
12	史跡払田柵跡 (大仙市第3次)	大仙市払田字森合、真山、館前	8/18 ~ 8/22	23	大仙市教育委員会	学術調査	平安：城柵官衙跡
13	史跡払田柵跡 (美郷町第1次)	美郷町本堂城河字百目木	10/19 ~ 10/21	8	美郷町教育委員会	学術調査	平安：城柵官衙跡
14	越ヶ崎城跡	美郷町六郷東根字越ヶ崎	9/7 ~ 11/30	26	美郷町教育委員会	学術調査	中世：城館跡
15	金沢城跡 (第8次)	横手市金沢中野字岩瀬沢	7/15 ~ 11/22	120	横手市教育委員会	学術調査	平安・中世：城館跡
16	赤川沼頭遺跡	横手市赤川字沼頭地内	5/9 ~ 7/8	2000	横手市教育委員会	ほ塙整備事業	平安：集落跡
17	栗林遺跡	横手市雄物川町造山字栗林	11/22 ~ 12/6	187	秋田県教育委員会	学術調査	绳文・平安：散布地
18	上輪遺跡	東成瀬村田子内字普生田神・字上輪	5/23 ~ 10/31	100	東成瀬村教育委員会	学術調査	绳文：集落跡
19	トクラ遺跡	東成瀬村椿川字トクラ4-1	5/16 ~ 10/28	4550	秋田県教育委員会	成瀬ダム建設事業	绳文：キャンプ地・墓域

\*番号は4頁の図に対応する。太字の遺跡名は次頁以降に概要を掲載している道路。

(2) 発掘調査概要

## トクラ遺跡

**【調査要項】**

所 在 地 秋田県雄勝郡東成瀬村椿川字トクラ4-1  
 調 査 期 間 平成28年5月16日～10月28日  
 調 査 面 積 4,550m<sup>2</sup>  
 遺 跡 の 時 代 縄文時代（早期～前期、中期末～晩期）、奈良時代  
 遺 跡 の 性 格 キャンプ地、墓域  
 事 業 名 成瀬ダム建設事業  
 事業関係機関 国土交通省東北地方整備局成瀬ダム工事事務所  
 調 査 担 当 赤星純平、安田創

**【調査概要】**

検 出 遺 構				主な出土遺物
縄文時代	掘立柱建物跡	2棟	土抗	12基
	石圓炉	1基	地床炉	1基
	配石遺構	1基	溝跡	1条
時期不明	焼土遺構	2基		土師器

トクラ遺跡は、栗駒山麓を源流とする成瀬川の支流、北ノ俣沢に面する標高482mの南向きの段丘上に立地する。遺跡の推定範囲は23,500m<sup>2</sup>に及び、昨年度は東側の4,540m<sup>2</sup>を、今年度は西側の4,550m<sup>2</sup>を対象に発掘調査を行った。

今年度調査区の北側には、北東から南北方向に向かって沢が流れている。調査の結果、沢の流路より南側に、主に縄文時代前期と後期の遺構や遺物が確認された。

流路北側の斜面から見つかった上坑の底からは、約5,500年前に降下した十和田中撮火山灰が検出された。この火山灰は調査区内の各所で堆積が確認されており、火山灰層の下からは縄文時代早期～前期、上からは中期末～晩期の土器や石器が見つかっていることから、この土坑は縄文時代前期にくられたと推定される。

調査区中央川岸の崖地からは、大形の扁平な石が円形に配置された配石遺構が検出された。配石遺構の下からは、配石遺構を作り易くするために、縄文人が地盤に多く含まれる礫を抜き取った痕跡が穴となって見つかった。石は礫を抜き取った後に、盛土や整地を行って石を配置されたため、配石遺構の石は同じ高さに揃えられていた。周辺からは呪いの道具である石棒も出土しているため、主に祭祀に関わる遺構と考えられる。

今年度の調査では、これらの遺構のほかに縄文人が煮炊きを行った炉跡などの遺構が確認されたもの、竪穴建物などの居住施設は確認されなかった。以上のことから、縄文時代前期には狩りや採集などを目的として一時的に使用する「キャンプ地」として、縄文時代後期には呪いを行う「祭祀の場」としてこの遺跡がつかわれたと考えられる。



遺跡遠景(西から)



十和田中振火山灰が  
検出された土坑  
(西から)



縄文時代後期の  
配石遺構(東から)

つつみさわ やま  
堤沢山遺跡

**【調査要項】**

所 在 地	秋田県由利本荘市川口字大学堤沢山8-2外
調 査 期 間	平成28年7月4日～8月26日
調 査 面 積	400m <sup>2</sup>
遺 跡 の 時 代	中世
遺 跡 の 性 格	生産遺跡
事 業 名	日本海沿岸東北自動車道（本荘～岩城）付加車線工事
事業関係機関	国土交通省東北地方整備局秋田河川国道事務所
調 査 担 当	山村剛、乙戸崇、小山美紀

**【調査概要】**

検出遺構				主な出土遺物
中世				中世
鍛冶炉跡	1基	焼土遺構	1基	鋳型 炉壁 鉄滓
溝跡	1条	土坑	4基	フイゴの羽口
排滓場	2か所	柱穴様ピット	8基	近世以降
粘土採掘坑	4基			陶磁器

堤沢山遺跡は、JR羽後本荘駅から北東1.9km、秋田県立大学本荘キャンパスの東方100mに位置し、標高30～50mの丘陵に三方を囲まれた沢と斜面に立地する。

平成15・16年には日本海沿岸東北自動車道建設事業に先立つ調査が行われ、12～13世紀代に梵鐘などの仏具と日常用具を生産した遺跡であることが確認された。また、土採り、鉛込み、鍛治、排滓、生活に直接関わる場が区域毎に展開し、綿密な計画のもとに製鉄や鋳造、鍛治などの操業が行われていたことが明らかとなった。今年度は、平成15年度の調査区北東部に隣接する、南北方向に延びる沢の落ち込みと東側の斜面を調査した。

調査の結果、土坑や溝跡、鍛冶炉跡などの遺構が確認され、多量の炉壁や鐵滓のほか、梵鐘の鋳型（龍頭部分）が出土した。遺跡では当初、調査区東側の緩斜面を利用して鉄生産関連の作業が行われた後、その斜面を切り崩した土砂で造成された平坦面上に鍛冶炉が作られた。鍛冶炉の上部は壊されていたが、直径約30cmの炉体部には高温で火が焚かれた痕跡が確認され、直径約1mの前庭部からは、炉体部から掻き出された炭化物や焼土塊が見つかった。前回の調査でも沢を挟んだ西側の緩斜面で鍛冶炉跡が見つかっており、この区域で鍛冶作業が行われていたと考えられる。

鍛冶炉廃絶後に設けられた溝跡周辺からは、炉壁や大型の羽口など製鉄関連の遺物が多く出土した。今回の調査区内から製鉄関連の遺構は確認されていないが、東側に隣接する調査区外の斜面上部に関連する遺構が存在し、そこから下方に捨てられたものが堆積したと考えられる。

今後、周辺地域の遺跡を含めて検討し、当該期の生産と流通の様相を明らかにする必要がある。



調査区遠景(南から)



鍛冶炉跡(西から)



出土した鋳型  
(梵鐘の龍頭)

# かたかい 片貝遺跡

## 【調査要項】

所 在 地	秋田県大館市比内町達子字中台31-1ほか
調 査 期 間	平成28年5月16日～9月9日
調 査 面 積	6,300m <sup>2</sup>
遺 跡 の 時 代	縄文時代 平安時代
遺 跡 の 性 格	縄文時代：狩獵場 平安時代：集落跡
事 業 名	大館工業団地造成事業
事業関係機関	秋田県産業労働部
調 査 担 当	関向昌之、巴亞子

## 【調査概要】

検 出 遺 構				主 な 出 土 遺 物
縄文時代	陥し穴状遺構	9基	土坑	10基
	焼土遺構	1基		
平安	竪穴建物跡	6棟	掘立柱建物跡	4棟
	竪穴・掘立柱併用建物跡			1棟
	土坑	2基	溝跡	2条
時期不明	土坑	4基	柱穴様ピット	84基

片貝遺跡は、米代川中流域、大館盆地を流れる米代川の支流犀川と引次川に挟まれた標高67mの台地縁辺部に立地する。南西700mには、同時代の片貝家ノ下遺跡が位置する。

今年度の調査では、平安時代の竪穴建物跡6棟、竪穴・掘立柱併用建物跡1棟、掘立柱建物跡4棟等を検出した。

竪穴・掘立柱併用建物跡は、竪穴部の南壁にカマドが付き、さらに1×1間の掘立柱建物跡が付属する。掘立柱建物跡には、周囲に溝を巡らせたり、地床炉や粘土を貼った三和土が伴うものがあり、倉庫や工房の可能性がある。

竪穴建物跡3棟と竪穴・掘立柱併用建物跡の竪穴部では、床面直上に地山塊を含む土が堆積し、埋土の上位から中位に火山灰が堆積する。降灰前に廃絶し、周堤を崩す等により竪穴の一部を埋め戻したものと考えられる。他の竪穴建物跡3棟では、埋土全体に火山灰が混じり、掘立柱建物跡のうち3棟では、炉や壁の構築土中にも火山灰が含まれている。いずれも降灰後に構築されたものである。

降灰前に廃絶した竪穴建物跡のうちの1棟では、床面から雁股鑓、カマド覆土上から鉄製の釣針が出土した。意図的に残置したものと推測される。

2か年の調査では、竪穴建物跡が18棟、竪穴・掘立柱併用建物跡3棟、掘立柱建物跡6棟等を検出した。遺構堆積土中の火山灰は、西暦915年の十和田火山噴火が起源と考えられることから、遺跡が立地する台地上では10世紀初頭にはすでに集落が形成され、十和田火山噴火による降灰後にも再び集落が営まれていたことが明らかになった。



調査区遠景  
(東側上空から)



竪穴建物跡内の火山灰層  
堆積状況 (西から)



三和土のある掘立柱  
建物跡 (北から)

# まちむら 町村Ⅱ遺跡

## 【調査要項】

所 在 地	秋田県南秋田郡五城目町馬場目字町村134外		
調 査 期 間	平成28年9月9日～11月28日		
調 査 面 積	1300m <sup>2</sup>		
遺 跡 の 時 代	縄文時代前・後期、江戸時代		
遺 跡 の 性 格	狩獵場・祭祀場（縄文時代）、生産遺跡（江戸時代）		
事 業 名	主要地方道秋田八郎潟線整備工事		
事業関係機関	秋田県秋田地域振興局建設部		
調 査 担 当	村上義直、山村剛、利部修、巴亞子、乙戸崇		

## 【調査概要】

検出遺構				主な出土遺物	
縄文時代	掘立柱建物跡	3棟	陥し穴状遺構	3基	縄文時代
	土器埋設遺構	1基	土坑	5基	土器・キノコ形土製品・石器（石鎌・石匙・石錐・石鍤・石皿・四石・敲石・三脚石器）
江戸時代	カマド状遺構	9基	焼土遺構	1基	江戸時代
時期不明	掘立柱建物跡	1棟	柱穴列	4条	陶磁器
	柱穴様ピット	185基	土坑	1基	

町村Ⅱ遺跡は、馬場目川左岸、標高34mの河岸段丘上に立地する。遺跡の北300mには、町指定文化財「朱彩瓶状土器」（縄文晚期）が出土した町村遺跡がある。

発掘調査では、縄文時代と江戸時代の遺構・遺物を検出した。

調査区中央北東部では、径1.1～1.2m、深さ約1mの円筒形を呈し、底面中央に直径15～17cm、深さ31～35cmの小さな穴が穿たれた土坑3基が、北東から南西に並んで確認された。遺構の形状及び遺跡内から出土した土器から、縄文時代前期初頭の陥し穴状遺構で、底面の穴には逆茂木が立てられていたと考えられる。

調査区南側中央部では、縄文後期前葉の土器や石器が集中する小規模な捨て場と、その周辺から掘立柱建物跡3棟、土坑5基が検出された。捨て場からは、米代川流域で多く出土する三脚石器が11点、当時の交易を知る手がかりになる黒曜石も4点出土した。掘立柱建物跡はいずれも4本柱で、調査区東端で確認した掘立柱建物跡の柱間はそれぞれ3.8～4.0mであった。またこの掘立柱建物跡の東にある土坑からは、石錐、石匙及び玉髓質の貝殻の剥片が出土し、土坑墓の可能性がある。

掘立柱建物跡は、同時代の環状列石に伴う掘立柱建物跡との関連が推測され、三脚石器やキノコ形土製品の出土も併せて考えれば、町村Ⅱ遺跡では、葬送も含む様々な祭祀が行われ、祭祀に使用された器物が遺棄されて捨て場が形成されたものと推定される。

江戸時代では、調査区東端で、カマド状遺構やそれに関連する焼土遺構が9基確認され、何らかの生産活動が行われていたと考えられる。

以上から、町村Ⅱ遺跡は、縄文前期初頭には狩獵場、後期前葉には祭祀場、江戸時代には作業場として使用されていたことが判明した。



## 4 刊行物一覧

遺跡名	峰吉川中村遺跡	発掘調査年	26年度	発行年月	28年9月
書名	秋田県文化財調査報告書第505集 峰吉川中村遺跡 一雄物川上流河川改修事業（中村芦沢地区）に係る埋蔵文化財発掘調査報告書一				
内容	遺跡の時代 平安時代 中世 近世 遺跡の性格 集落跡・祭祀跡 検出遺構 平安時代：竪穴建物跡2棟、井戸跡8基、火葬墓1基、土坑13基、焼土遺構2基 中世：井戸跡26基、カマド状遺構31基、火葬施設4基、火葬墓9基、溝跡2条、焼土遺構1基 近世：掘立柱建物跡7棟、柱穴列2条、竪穴建物跡7棟、井戸跡4基、土坑3基 時期不明：井戸跡1基、溝跡4条、土坑18基、焼土遺構7基、柱穴様ピット1065基				
	出土遺物 平安時代：土師器、須恵器 中世：中国産磁器（龍泉窯・同安窯）、須恵器系陶器、瀬戸美濃陶器 近世：肥前陶磁器、在地系陶器、土製品（貝風呂・焙烙・羽口） 繩文土器、石匙・砥石、木製品（井戸枠構成材・曲物・漆椀・鉤・箸・木簡等）、錢貨、鉄滓				

遺跡名	上谷地遺跡	発掘調査年	27年度	発行年月	28年9月
書名	秋田県文化財調査報告書第506集 上谷地遺跡（第2次）－日本海沿岸東北自動車道（本荘～岩城）付加車線工事に係る埋蔵文化財発掘調査報告書一				
内容	遺跡の時代 繩文時代 平安時代 中世 遺跡の性格 散布地 城館跡 検出遺構 中世：竪穴状遺構11基 時代不明：土坑4基、焼土遺構1基、溝跡2条、土手跡1条、道路跡1条、柱穴様ピット9基				
	出土遺物 繩文土器、石器、土師器、須恵器、陶器				

書名	秋田県文化財調査報告書第507集 遺跡詳細分布調査報告書	発掘調査年	28年度	発行年月	29年3月
内容	平成28年度に実施した遺跡分布調査と遺跡確認調査の報告。				

書名	秋田県埋蔵文化財センター年報34（平成27年度）	発行年月	28年6月
内容	秋田県埋蔵文化財センターの平成27年度の歩みを総括し、I沿革、II組織・施設、III平成27年度の歩み、IV事業の概要、V研修事業などを記載。事業の概要では、平成27年度発掘調査した3遺跡の発掘調査概要、活用・普及事業の実績を掲載。		

書名	秋田県埋蔵文化財センター研究紀要 第31号	発行年月	28年3月
内容	利部 修 「古代土器の製作過程と技法の表記」 山田 祐子・加藤 竜 「縄文時代竪穴建物跡集成Ⅱ（前期）」 （平成28年度『開設35周年記念講演会』講演録） 武藤 康弘（奈良女子大学）「縄文時代 秋田の住まいと暮らし」 熊谷 公男（東北学院大学）「古代秋田の発展」		

書名	鶴田の原風景～考古学で巡る秋田・男鹿・八郎潟周辺～	発行年月	28年9月
内容	平成28年9月～平成29年3月開催の秋田県埋蔵文化財センター平成28年度企画展第Ⅱ期『鶴田の原風景～考古学で巡る秋田・男鹿・八郎潟周辺～』の展示解説パンフレット。 秋田・男鹿・八郎潟周辺で発掘調査された江戸時代から旧石器時代までの遺跡とその出土品を紹介。A4判カラー16頁。		

書名	平成28年度秋田県埋蔵文化財発掘調査報告会資料	発行年月	29年3月
内容	平成29年3月12日に秋田市で開催した、平成28年度秋田県埋蔵文化財発掘調査報告会の配付資料。平成28年度に県内で発掘調査された遺跡のうち、主要なものの発掘調査成果について、カラー写真と平易な文章で紹介。県内発掘調査遺跡一覧表と遺跡位置図、年表も掲載。		

## 5 活用・普及事業

埋蔵文化財センターは、遺跡の発掘調査を中心業務としている。さらに、発掘調査成果をはじめ多くの文化財を活用して、秋田の歴史、地域の歴史を県民に発信するために、資料の公開・活用・普及事業を積極的に推進している。今年度も企画展、講演会、バスツアー、セミナー、遺跡見学会など各種事業を展開した。

### （1）秋田県埋蔵文化財発掘調査報告会

秋田県教育委員会及び市町村教育委員会等の実施した発掘調査成果を広く県民に公開し、埋蔵文化財の保護について理解を深めてもらうことを目的に、昭和56年度から発掘調査報告会を開催している。

今年度は平成29年3月12日（日）、秋田県生涯学習センターとの共催で同センターを会場に開催し、10本の報告と出土品、写真パネル等を展示了。参加者は250名で、配布資料に目を通し、メモを取りながら熱心に報告を聞いたり、報告内容について質問をしていました。展示会場でも写真や遺物を前にして質問をする姿が見られた。

また、同時開催したオープンラボ（考古学体験教室）でも、興味関心を持って各種体験を楽しむ姿が見られ、盛況のうちに終了した。オープンラボ（考古学体験教室）への参加者は延べ93名であった。

全体的には時間に大幅な遅れ等ではなく、予定どおりに運営され、参加者が多かった。報告や展示にあたっては、各市町村教育委員会から、運営や準備等にあたっては、県生涯学習センターから協力をいただいた。

【報告内容】 会場での報告に加え、出土品、写真パネル等も展示了。

1 平成28年度県内発掘調査の概要	五十嵐一治 主任学芸主事兼調査班長
2 トクラ遺跡（東成瀬村）	安田創 調査班文化財主事
3 町村Ⅱ遺跡（五城目町）	山村剛 調査班学芸主事
4 史跡秋田城跡（秋田市）	秋田市立秋田城跡歴史資料館 神田和彦氏
5 史跡払田柵跡（大仙市・美郷町）	宇田川浩一 県教育庁払田柵跡調査事務所副主幹
6 片貝遺跡（大館市）	巴亜子 中央調査班文化財主事
7 片貝家ノ下遺跡（大館市）	村上義直 中央調査班副主幹
8 金沢城跡（横手市）	横手市教育委員会 島田祐悦氏
9 史跡檜山安東氏城館跡（能代市）	能代市教育委員会 播磨芳紀氏
10 大館城跡（大館市）	大館市教育委員会 馬庭和也氏

【展示遺跡】 ※上記の報告、展示に加え、次の4遺跡の出土品、写真パネル等も展示了。

堤沢山遺跡（由利本荘市） 伝次郎塚遺跡（大仙市） 赤川沼頭遺跡（横手市）  
上拵遺跡（東成瀬村）

なお、会場となった秋田県生涯学習センターでは、「平成28年度秋田県内発掘調査成果展」を3月14日（火）から4月11日（火）まで1階玄関ホールで開催し、今回の報告会で使用した遺跡の写真や遺構配置図等を展示了。



報告会場の様子



展示会場の様子

## (2) 遺跡見学会

発掘調査成果を広く県民に公開し、郷土の歴史と埋蔵文化財に対する理解を深めてもらうことを目的に、今年度は、片貝遺跡（大館市）、トクラ遺跡（東成瀬村）の発掘調査、片貝家ノ下遺跡（大館市）の確認調査で遺跡見学会を実施した。各会場では、検出遺構や出土遺物を公開し、調査担当者が説明を行った。また、町村Ⅱ遺跡（五城目町）発掘調査では、地域住民に発掘調査への理解を深めてもらうことを目的に、地域住民を対象とした発掘調査現地公開を実施した。

片貝家ノ下遺跡は、集落跡とその周辺に広がる水田跡が、西暦15年の十和田噴火直後に起こった火山泥流で埋没した遺跡である。見学会では、建物跡の板壁等の痕跡が厚いシラス層の中に立体的に残っている様子や、県北で初めて発見された平安時代水田跡等に注目が集まった。遺跡見学会に先立ち、11月11日（金）には報道機関や研究者を対象に事前公開を行い、30名が来場した。

遺跡名	日時	主な公開内容	参加者
片貝遺跡 (大館市)	8月6日（土） 13:30～15:30	平安時代の集落跡（竪穴建物跡、雁股鏡、鉄製釣針）、縄文時代の狩猟場（陥し穴）	100名
トクラ遺跡 (東成瀬村)	10月4日（日） 13:00～15:00	縄文時代の野営地・墓域（炉跡、配石遺構、石鏡、石槍、石棒、石刀）、奈良時代の土師器高环	42名
町村Ⅱ遺跡 (五城目町)	11月28日（金） 13:00～15:30	縄文時代の祭祀遺跡（掘立柱建物跡、三脚石器、縄文土器破片）、江戸時代のカマド状遺構群	50名
片貝家ノ下遺跡 (大館市)	11月13日（日） 13:00～15:00	平安時代の集落跡（竪穴・掘立柱併用建物跡、竪穴建物跡、掘立柱建物跡）、水田跡（畦畔跡）	280名



片貝遺跡



トクラ遺跡



町村Ⅱ遺跡



片貝家ノ下遺跡

### (3) セカンドスクール的利用

#### ①利用状況

学校	小学校	中学校	特別支援学校	高等学校	その他	合計
利用件数	21	3	3	3	4	34
利用人数	836名	45名	96名	39名	69名	1085名

#### ②活動の具体例

- ・縄文土器や石器に触れて用途などを学ぶ体験
- ・大昔の人々の知恵に学ぶ「石器づくり」
- ・特別展示室や整理作業室の見学
- ・地域の遺跡や文化財の学習を支援する「授業サポート」
- ・発掘現場の見学



石器体験

### ③平成28年度の成果



石器作り体験

展示見学と土器や石器に触れて用途などを学ぶ体験をセットにした学習を中心多く利用があった。また、センター利用の学校のほとんどが石器づくりを活動に加えている。今年度も中央調査班に隣接する栗田支援学校と連携し、中学部2年生の「栗田の縄文プロジェクト」学習で講話や体験学習の支援を行うなど、特別支援学校の利用を促進することができた。また、プロジェクトには秋田公立美術大学附属高等学院3年生が参加した。

### ④職場体験・インターンシップ

平成18年度からセカンドスクールの利用の一環として職場体験やインターンシップの受け入れを始め、今年度は、中学校1件6名、高等学校2件20名の利用があった。

埋蔵文化財センターで実施している発掘調査や整理作業を見学・体験することによって、職業に対する関心を高め、考古学や文化財保護の業務に関する理解を深めることを目的として行っている。



大曲高校インターンシップ  
払田櫛夏フェスに協力

### ⑤出前授業

今年度の出前授業は小学校7件、中学校1件、高等学校1件、特別支援学校3件、専修学校3件であった。出前授業は、基本的に普段埋蔵文化財センターで行っている「土器や石器に触れて用途などを学ぶ体験」と「地元の発掘調査成果を元にした遺跡や出土品の展示・説明」を組み合わせた授業で、縄文時代を中心に古代から中世にかけての地域の歴史を扱った。出土品を実際に手に取り、地元にも多数の遺跡があることを知つもらうことによって、児童・生徒の、地域の歴史や文化財への興味・関心を深め、その後の歴史学習に対する意欲を高めることを目的としている。



湯沢西小学校 6年生



鳥海中学校 1年生



栗田支援学校中学部 2年生

#### (4) 企画展

平成28年度の企画展は、「鶴田の原風景」と題して、埋蔵文化財センター特別展示室を会場に第Ⅰ期を平成28年4月9日～平成28年8月28日まで、第Ⅱ期を平成28年9月3日～平成29年3月12日までの期間開催した。第Ⅰ期は、当初計画では8月21日までの予定であったが、少しでも多くの方に見学いただけるよう、期間を1週間延長した。

企画展のテーマは、主として秋田沿岸南部～中部地域において実施された発掘調査の出土品を近世から遡って展示することを通じて、当該地域の通史の一端を紹介することである。第Ⅰ期は「考古学で巡る島海山麓、にかほと由利本荘」の副題で、沿岸南部のにかほ・由利本荘市域を対象とし、第Ⅱ期は「考古学で巡る秋田・男鹿・八郎潟周辺」の副題で、沿岸中部の雄物川下流域・男鹿半島・八郎潟東岸を対象とした。

第Ⅰ期は、近世では六郷氏の居城であった本荘城跡や滝沢氏の滝沢城跡から出土した陶磁器などを展示し、中世では岩倉館跡から出土した陶磁器類や堤沢山遺跡から出土した鋳型を始めとする梵鐘鋸造に関わる資料などを展示した。古代では、近年の日本海沿岸東北自動車道建設に先立つ発掘調査で家ノ浦II遺跡や清水尻II遺跡などから出土した多様な土器類のほか、湯水沢遺跡の製鉄に関わる出土品や大覚遺跡出土の銅印なども展示した。また、古墳時代では、県内では極めて珍しい井岡遺跡出土の子持勾玉や宮崎遺跡出土の北大式土器を展示了。縄文時代では、草創期の上台遺跡出土土器を始め各時期の縄文土器のほかに、提鍋遺跡出土の前期の岩偶や湯出野遺跡出土の晩期の土偶なども展示した。旧石器時代では、龍門寺茶畑遺跡でまとまって出土した石器を紹介している。

第Ⅱ期は、近世から旧石器時代まで、各時代ごとに城館や城柵、拠点集落といった大規模な遺跡と農村のような小規模な遺跡を出来るだけ対比的に取り上げ、それぞれの出土品を展示するとともに、特徴的な墓についてもいくつか紹介した。代表的な展示遺跡は、中近世の城館では久保田城跡と脇本城跡、古代の城柵では秋田城跡、古代から近世の農村では毘沙門遺跡や古野遺跡、片野I遺跡などである。また、潟向I遺跡の古代の蔵骨器も展示了。古墳時代から旧石器時代では、大小の集落遺跡を中心に紹介した。代表的な展示遺跡には、古墳時代の小谷地遺跡、弥生時代の風無台II遺跡、縄文時代中期の河辺松木台III遺跡などがある。また、戸平川遺跡の縄文時代晚期の土坑墓や現海面下に存在する遺跡から打ち上げられたと考えられる男鹿市脇本海岸で採集された縄文時代早期の土器と石器などを紹介した。

期間中の見学者は、第Ⅰ期が1,453名、第Ⅱ期が972名であった。



第Ⅰ期展示の様子



第Ⅱ期展示の様子

## (5) 講演会

本年度の講演会は、「秋田県埋蔵文化財センター開設35周年記念講演会」として9月3日(日)に秋田県庁第2庁舎8階大会議室を会場として開催した。演題・講師は次のとおり。

「縄文時代秋田の住まいと暮らし」奈良女子大学 教授 武藤康弘氏

「古代秋田の発展」 東北学院大学 教授 熊谷公男氏

武藤氏の講演は、同氏が研究している民族考古学の立場から、

1. 堅果類の可食処理工程の実態
2. 非加熱アクヌキ法と加熱処理の重要性
3. 堅果類の可食処理技術の歴史週及的分析
4. 縄文時代の住居と住まい方
5. 縄文時代の住居の多様性
6. 縄文時代後晩期の住居遺跡の低地化
7. 民族考古学の実践的研究

として、たくさんの写真資料と遺跡の発掘からわかった事柄を基に講話を行っていただいた。このうち、堅果類のアク抜きについては日本各地で現在おこなわれている事例を詳しく説明されていた。

熊谷氏の講演は、考古学および文献史学の立場から、

1. 古代秋田の特色
2. 秋田の歴史への登場
3. 出羽国の成立と出羽柵の秋田移転
4. 出羽柵から秋田城へ

として、豊富な資料(年表、史料、図面)を用いての講話であった。参加者からは出羽柵や秋田城の説明がわかりやすいと好評であった。

参加者は144名であった。



武藤氏と熊谷氏



たくさんのスクリーンで説明



会場に集まつた多くの聴講者

## (6) あきた埋文考古学セミナー

第1回 「縄文時代は平等な社会か？否か？－秋田市  
じかた  
地方遺跡からみた縄文時代晚期の社会構造－」

期 日：平成28年7月30日（土）

会 場：秋田県立図書館

参加者：80名

講 師：神田和彦氏（秋田市立秋田城跡歴史資料館主査）

県立図書館との共催により開催した。講演では、縄文時代の社会階層をめぐる議論や縄文時代晚期における社会構造についての予察を紹介した。また、地方遺跡の分析として、遺跡内の土壙墓を4つの群に分け、勾玉、ヒスイ、土器等の遺物の出土状況について詳細に調べたものをもとに考察していた。講演後の質問も多くの方から寄せられた。講演に続き特別展示室にて、開催中の第1回出張展示『秋田平野の縄文文化』と地方遺跡の展示見学を行い、展示資料をとおして考えられる各遺跡の特徴などについて解説していた。展示見学終了後も講演内容や展示品について個別に質問する方多く、関心が高かった。

第2回 「鳥海山麓、日本海沿岸部の縄紋文化－縄文時代の由利本荘市と遊佐町－」

期 日：平成28年9月17日（土）

会 場：由利本荘市文化交流館カダーレ

参加者：40名

講 師：小林克氏（前秋田県埋蔵文化財センター所長）

由利本荘市教育委員会との共催により開催した。講演では、歴史や東日本や日本海沿岸での鳥海山の位置、大陸との関わり、鳥海山南北麓の縄紋遺跡、葛蒲崎貝塚と小山崎遺跡、サケ石とサケ漁が示す信仰、宗教觀についてスライドや詳細な資料をもとにしながら概説していた。講演後の質問も多くの方から寄せられた。講演終了後に修身館に会場を移動し、開催中の第2回出張展示『鳥海山麓、日本海沿岸部の縄文文化－縄文時代の由利本荘市と遊佐町－』の展示見学を行い、展示資料をとおして考えられる各遺跡の特徴などについて解説を行った。修身館での展示解説では、由利本荘市教育委員会の



第1回セミナー 会場の様子



第1回セミナー 展示見学の様子



第2回セミナー 小林氏講演の様子



第2回セミナー 展示見学の様子

三原裕姫子氏と遊佐町教育委員会の渋谷咲智氏の協力をいただいた。

### 第3回 「小谷地埋没家屋とは何だったのか？」

期 日：平成28年10月22日（土）

会 場：男鹿市ジオパーク学習センター

参加者：35名

講 師：五十嵐祐介氏（男鹿市教育委員会）

　　村上義直（中央調査班）

男鹿市教育委員会との共催により開催した。講演では、これまで5回に及ぶ発掘調査を実施した結果を踏まえながら、小谷地遺跡の特徴や古代国家におけるこの地域の存在意義等をスライドを用いて概説していた。講演に続き、第3回出張展示『小谷地埋没家屋とは何だったのか？』の展示見学を行い、展示資料をとおして考えられる遺跡の特徴などについて解説していた。展示見学終了後も講演内容や展示品について個別に質問する方も多く、関心が高かった。アンケートから、遺跡の詳細が分かって大変勉強になった、近くにとても貴重な遺跡があり驚いた等セミナーや関連する出張展示で遺跡の存在を知る方が多かった。



第3回セミナー 村上副主幹講演の様子



第3回セミナー 五十嵐氏講演の様子

### （7）あきた埋文出張展示

出張展示は埋蔵文化財を活用した展示を当センター以外の施設でも行い、より広く県民に公開することによって地域の歴史や文化、埋蔵文化財に対する理解を深めていただくことを目的としている。今年度は県内4会場で開催した。

#### 第1回『秋田平野の縄文化』

会期：平成28年6月18日（土）～8月18日（木）

会場：秋田県立図書館 2階 特別展示室

秋田県立図書館との共催事業として開催した。展示は松木台Ⅲ遺跡を中心に構成し、写真パネルで主な遺構の様子や遺物の出土状況を紹介するとともに、縄文時代の土器や石器、土製品等、同遺跡の出土品を展示して秋田平野の縄文化を紹介した。会期中に同会場で第1回あきた埋文考古学セミナーを開催し、セミナー終了後に展示解説を行った。展示見学終了後も講演内容や展示品について個別に質問する方多く、関心が高かった。期間中の来場者は4,218人で、県立図書館には広報や運営等で大きく協力をいただいた。



第1回出張展示会場



第1回出張展示の様子

#### 第2回『鳥海山麓、日本海沿岸部の縄文文化－縄文時代の由利本荘市と遊佐町－』

会期：平成28年9月17日（土）～11月13日（日）

会場：由利本荘市体験学習施設修身體

由利本荘市教育委員会と山形県飽海郡遊佐町教育委員会との共催事業として開催した。鳥海山麓には豊富な湧水とそれを源流とする水系が形成され、多くの遺跡が立地しており、特に縄文遺跡群が顕著に認められる。今回の展示では縄文遺跡のうち、鳥海山北麓として由利本荘市の菖蒲崎貝塚や提鍋遺跡、根子ノ沢Ⅰ遺跡、湯出野遺跡を、南麓として遊佐町の小山崎遺跡や柴燈林遺跡、小倉向遺跡、三崎山A遺跡、杉沢A遺跡を取り上げ、それぞれの遺跡の様相を出土した遺物や写真などで紹介した。会期中に会場近隣にある由利本荘市文化交流館カーラーで第2回あきた埋文考古学セミナーを開催し、セミナー終了後に会場を移動して展示解説を行った。期間中の来場者は1,146人で、同市・町教育委員会には展示解説や企画、運営等で大きく協力をいただいた。



第2回出張展示 展示解説の様子



第2回出張展示 展示解説の様子

#### 第3回『小谷地埋没家屋とは何だったのか？』

会期：平成28年9月22日（木）～10月30日（日）

会場：男鹿市ジオパーク学習センター

男鹿市教育委員会との共催事業として開催した。男鹿市脇本に所在する小谷地遺跡で発見されていて、全国でも極めて珍しい「古代の埋没家屋」は、近年の発掘調査によって、古代水田に伴う用水路の「堰」であったことが明らかになるとともに、遺跡は、古代律令政府による八郎湖沿岸の支配及び

開発に関わる重要な拠点であったことがより一層明確となってきた。今回の展示では、これまでの小谷地遺跡の発掘調査写真で遺構の様子や遺物の出土状況を紹介するとともに、出土品を展示して遺跡の特徴と秋田の古代史上における意義について紹介した。会期中に同会場で第3回あきた埋文考古学セミナーを開催し、セミナー終了後に展示解説を行った。期間中の来場者は719人で、同市教育委員会には広報や運営等で大きく協力をいただいた。



第3回出張展示会場



第3回出張展示会場

#### 第4回『時をかける～片貝家ノ下遺跡×栗田の縄文プロジェクト～』

会期：平成29年3月2日（木）～3月7日（火）

場所：秋田県立美術館県民ギャラリー

秋田県立栗田支援学校との共催事業。片貝家ノ下遺跡は十和田火山噴火（915年）による火山泥流で住居跡などが立体的に残った、いわば、平安時代のタイムカプセルである。この遺跡の発掘成果をたくさんの写真パネルで紹介した。また、フロアーでは、秋田県立栗田支援学校中学部2年生が取り組んでいる「栗田の縄文プロジェクト」で、秋田公立美術大学附属高等学院3年生と共同制作した縄文土器などを展示した。

会期中の土曜と日曜の13：30からギャラリートークをおこなった。会期中の来場者は343名、ギャラリートークの参加者は2日間で50名であった。



第4回出張展示会場



第4回出張展示ギャラリートーク

### (8) 古代発見！バスツアー

遺跡や史跡をバスで巡回し、郷土の歴史や文化財について理解を深めてもらうとともに、埋蔵文化財センターの活動を広く知ってもらおうという事業である。今年度は「由利本荘・にかほの文化財探訪コース」と「男鹿半島の文化財・ジオパーク探訪コース」を設定し、秋田市発着でそれぞれ3回ずつ実施した。

新聞・チラシ・ホームページ等で広報し、各コース第3希望日まで応募できるようにした結果、各回の人数を調整してほとんどの参加希望に応えることができた。

回	期日・参加人数	内 容 ・ コ ー ス
第1回	9月21日(水) 【参加者20名】	企画展「鶴田の原風景」第Ⅰ期に関連する由利本荘・にかほの文化財を巡見。ガイドは埋蔵文化財センター職員が行い、にかほ市院内地区では市教委職員及び郷土史研究会の方々、由利本荘市修身館では市教委及び遊佐町教委職員の方々に解説をいただいた。
第2回	9月27日(火) 【参加者22名】	・秋田駅東口→七高神社・禅林寺・陽山寺（にかほ市）→道の駅象潟→本荘城跡修身館（由利本荘市）→秋田駅東口 ※道の駅象潟で昼食・休憩、「天然記念物象潟」展望。
第3回	9月30日(金) 【参加者20名】	※修身館で「第2回あきた埋文出張展示」を見学。
第4回	10月4日(火) 【参加者17名】	企画展第Ⅱ期に関連する男鹿半島の文化財・ジオパークなどを巡見。ガイドは埋蔵文化財センター職員が行い、男鹿市教委職員及び史跡脇本城跡案内の方々に解説をいただいた。
第5回	10月6日(木) 【参加者17名】	・秋田駅東口→国指定史跡脇本城跡・寒風山（男鹿市）→男鹿市ジオパーク学習センター→秋田駅東口 ※寒風山では「鬼の隠れ里」、「板場の台」等のジオサイトを見学。
第6回	10月12日(水) 【参加者16名】	※ジオパーク学習センターで昼食、「第3回あきた埋文出張展示」見学。 ※当日の天候により見学地の順番を変更した。



第1回 陽山寺の見学



第1回 修身館の見学

第1～3回では、山根館跡城下のにかほ市院内地区を訪れ、かつて居城した由利氏や仁賀保氏ゆかりの社寺を巡るとともに、遊佐町教育委員会の協力の下、由利本荘市修身館で展示中の「鳥海山麓、日本海沿岸部の縄文文化」を見学した。第4～6回は、脇本城跡、寒風山のほか、男鹿市ジオパークセンターを巡り、常設展及び出張展示「小谷地埋没家屋とは何だったのか」を見学した。



第2回 七高神社の見学



第3回 梵林寺の見学



第4回 ジオパーク学習センターの見学



第5回 ジオパーク学習センターの見学



第5回 脇本城跡の見学



第6回 寒風山の見学

## （9）共催・機関連携等による普及事業

### ① 農業科学館まつり

平成28年7月10日（日）に開催された平成28年度農業科学館まつりに協力団体の一つとして参加し、「縄文時代の遊び・生活体験」として石器づくり体験と弓矢体験、文様染め（コースターづくり）体験を行った。今回は、盛岡大学4年生の博物館実習生2名にも各種体験活動での職員の補助として運営に協力してもらった。

時折雨が降る天気にもかかわらず、親子連れを中心に延べ168人の参加者が上記の各体験に取り組んだ。苦労しながらも次第にコツをつかんでいき、「おもしろかった」という感想をたくさんいただいた。また、各体験に何度も取り組む子どもの姿も多く見られた。他の団体の催し物とともに利用してもらい、埋蔵文化財センターの体験活動を多くの人に紹介することができた。2名の実習生も、各体験での準備や子どもたちへのサポート、アドバイスを行うなど、運営によく取り組んでくれた。博物館での普及事業に相当するような今回の事業運営に関わり、よい経験ができたと思う。



弓矢体験の様子



石器づくり体験の様子

### ② 土器に生ける秋の草花展

県立農業科学館との共催で、10月8日から10月23日まで開催した。今年度は大館市池内遺跡出土の縄文土器10点と関連するパネル資料を展示した。秋の草花は東大曲小学校6年生のみなさんにアレンジしてもらったが、大型の土器に見あったダイナミックな作品が多くった。見学者からは、「身近な野の花と土器との調和がよい」などの感想が寄せられた。



農業科学館展示会場

③ あきた県庁出前講座

あきた県庁出前講座は、県職員が県民の要請に応じて講師として出向き、さまざまな情報を提供して県事業等への理解を図ることを目的としている。埋蔵文化財センターも特長をいかした講座を用意している。

月 日	要請団体	内 容	番号	講 師	会 場
7月15日(金)	北秋田市教育委員会生涯学習課	考古学をしよう 【参加者 25名】	185	資料管理活用班 学芸主事 工藤伸也 学芸主事 堀川昌英	北秋田市民ふれあいプラザ「コムコム」
7月31日(日)	湯沢市産業振興部観光・ジオパーク推進課	考古学をしよう 【参加者 29名】	185	資料管理活用班 学芸主事 小徳 晶 学芸主事 堀川昌英	湯沢市高松地区センター
8月12日(金)	仙北市田沢湖オートキャンプ場縄文の森たざわこ商栄(株)	考古学をしよう 【参加者 60名】	185	資料管理活用班 主任学芸主事(兼) 班長 大森 浩 学芸主事 工藤伸也 学芸主事 堀川昌英	仙北市田沢湖オートキャンプ場縄文の森たざわこ
10月14日(金)	大館市職員退職者会	リアルタイム発掘調査 最前線 【参加者 40名】	184	中央調査班 主任文化財専門員(兼) 班長 谷地 薫	片貝遺跡比内ベニヤマ莊
1月21日(土)	大湯ストーンサークル館	リアルタイム発掘調査 最前線 【参加者 15名】	184	中央調査班 主任文化財専門員(兼) 班長 谷地 薫	文化の杜交流館「コモッセ」
2月4日(土)	(株)菅与組	出土品から学ぶ秋田の歴史 【参加者 37名】	183	資料管理活用班 主任学芸主事(兼) 班長 大森 浩	(株)菅与組本社会議室

#### ④ あきたスマートカレッジ連携講座 「発掘！考古ゼミ」

県生涯学習センターとの機関連携事業である。県の教育機関が連携し、相互に特徴を生かすことによって活性化を図ることをめざしている。今年度も県生涯学習センターを会場に4回開催し、秋田市を中心に多数の受講者を得ることができた。講座をとおして、発掘調査による遺跡の概要を紹介したり、埋蔵文化財センターの活動等を紹介することができた。

回	期　日	講演テーマ・参加人数	講　　師
第1回	11月11日（金）	払田柵を造る－奈良時代から平安時代初期の出羽－ 【参加者 31名】	県教育庁払田柵跡調査事務所 副主幹（兼）調査班長 宇田川浩一
第2回	11月18日（金）	横手盆地を経営する－平安時代の出羽－ 【参加者 32名】	県教育庁払田柵跡調査事務所 副主幹（兼）調査班長 宇田川浩一
第3回	11月25日（金）	県北の平安時代－最近の発掘成果から－ 【参加者 27名】	中央調査班 主任文化財専門員（兼） 班長 谷地 薫
第4回	12月 2日（金）	発掘調査速報 東成瀬村トクラ遺跡 【参加者 32名】	調査班 文化財主事 赤星純平

#### ⑤払田柵跡古代体験フェス2016

小学生の夏休み期間に合わせ、払田柵跡で、古代の生活に触れる体験をとおして地域の歴史や現代の生活との違いについて学習する目的で大仙市教育委員会とともに開催した。

期日：8月3日（水）

会場：払田柵跡史跡公園

内容としては木簡はがき・絵馬づくり・勾玉づくり・平安衣装着用・乗馬・南門登上・火おこし・弓矢・投壺・赤外線カメラなどである。暑い日であったが小学生と保護者合わせて80名が楽しみながら古代の生活を体験していた。



弓矢を体験する小学生

#### ⑥ ふるさと発掘 in 大館2016（片貝遺跡発掘調査速報展）

本事業は、大館市教育委員会との共催で昨年度から引き続き実施したもので、大館工業団地造成に伴い当センターが大館市比内町の片貝遺跡を発掘調査することが契機となっている。今年度は大館郷土博物館で発掘調査速報の写真パネルを掲示する出張展示「片貝遺跡発掘調査速報展」を開催した。6月18日から10月10日まで大館郷土博物館ロビーに、昨年度の調査概要に今年度の情報を加え、展示の写真パネルは、およそ二週間毎に追加・入れ替えを行い、最新の発掘調査の様子や状況を掲示した。期間中に1,638名の方が観覧した。



片貝遺跡発掘調査速報展

#### ⑦秋田県シルバー人材センター連合会「大館市遺跡発掘補助員講習」

本講習は、秋田県シルバー人材センター連合会が主催して、シルバー人材センターで遺跡発掘作業への就業を希望する人を対象に、発掘調査についての座学や発掘作業実習を行うものである。昨年度に引き続き、今年度も開催された。6月28日（火）は、大館郷土博物館を会場に埋蔵文化財センター職員が発掘作業全般についての講義を行い、6月29日（水）は、片貝遺跡発掘調査現場において、職員の指導のもとで地山面のジョレン掛け、遺構（Tピット）検出、遺構半截までを実際に行った。受講者は11名。



片貝遺跡発掘現場での実習の様子

炎天下での野外作業であったが、土を平坦に削って新鮮な面を出す作業に興味を持ったという感想や、機会があれば是非從事したいという声が聞かれた。

(10) その他

① 所蔵資料・古代体験キット・ビデオの貸し出し実績

年 度	26年度	27年度	28年度
所蔵資料 貸出数	18件	42件	22件
キット 貸出数	2件	6件	9件
ビデオ 貸出数	0件	1件	0件
火起こし 貸出数	3件	1件	3件

※所蔵資料貸出内訳

資 料 種 別	使用目的		
	展示公開	書籍等掲載	研究他
遺 跡 出 土 品	8件	3件	1件
フィルム写真データ	0件	0件	0件
デジタル写真データ	2件	10件	0件
そ の 他	1件	0件	0件

② センターの開放と展示

見学者によりよく身近に埋蔵文化財を理解していただくために「いつでもギャラリートーク」を行っている。これは、平日の開館時間に来所された見学者に、要望に応じて専門職員がいつでも展示品の解説を行うというものである。さらに展示ケースを開けて実際の遺物に触れていただき、展示品を「見る」だけでなく、古の息吹をじかに「感じて」いただけるようにしている。ギャラリートークの所要時間は見学者の希望に合わせて15~30分程度である。また、企画展パンフレットや過去の印刷資料なども自由に持ち帰れるようにしている。秋田県内における縄文時代の出土品が見学できる施設や今年度発掘調査が行われている所を大型マップに掲示し、県内の遺物めぐりを提案している。

	開館時間	見学可能箇所
平 日	9:00 ~ 16:00	特別展示室・第1収蔵庫(※)・整理室(※)・中央調査班展示室
土・日・祝日	9:00 ~ 16:00	特別展示室

(休館日：1月1日～3日、成人の日、建国記念の日、春分の日、12月28日～31日)

③ 図書整理・図書一般公開

当センターで発刊した報告書等や他県などから送付された報告書等を登録、配架し、図書の利用環境を整備した。また、全国遺跡資料リポジトリ事業における秋田県遺跡リポジトリ公開用電子データとして、奈良文化財研究所に今年度本センターで刊行した発掘調査報告書のPDFデータを提供した。また、秋田県立図書館デジタルアーカイブ公開用電子データとして、平成26年度企画展パンフレット「払田柵跡調査40周年記念 扟田柵跡 巨大城柵の実像に迫る」などのPDFデータを同図書館に提供した。これらのデータは、次のURLで公開されている。

奈良文化財研究所「全国遺跡報告総覧」アドレス：<http://sitereports.nabunken.go.jp/ja/>

秋田県立図書館「デジタルアーカイブ」アドレス：<http://da.apl.pref.akita.jp/maibun/>

(11) 講演・研究論文等

(平成28年6月)

〈発表・報告〉安田 創「縄文時代のアスファルト」『秋田考古学協会平成28年度春季研究会』ルポールみずほ（秋田市）

〈発表・報告〉小山美紀「東北地方における中世陶器窯の研究」『秋田考古学協会平成28年度春季研究会』ルポールみずほ（秋田市）

〈発表・報告〉乙戸 崇「板碑の銘文考証をどう活かすかー「陸奥州主」銘板碑の人物比定を中心にして』『秋田考古学協会平成28年度春季研究会』ルポールみずほ（秋田市）

〈コラム〉高橋 学「十和田火山の噴火と胡桃館遺跡」「三十八年戦争と蝦夷政策の転換」吉川弘文館

(平成28年7月)

〈特別寄稿〉谷地 薫「秋田県立大館鳳鳴高等学校社会部の発掘活動」『全国高等学校考古名品展2016』（図録）九州国立博物館

〈発表〉赤星純平「後旧石器時代における石斧の機能について－形態学的研究からの一観点－」秋田県石器文化研究会

(平成28年8月)

〈発表・報告〉五十嵐一治「払田柵跡関連遺跡の調査－造山地区を中心に－」『平成28年度後三年合戦沼柵公開講座』横手市雄物川コミュニティーセンター

〈報告〉村上義直「屋根の痕跡が確認された平安時代の埋没建物」『季刊考古学』第136号 雄山閣

(平成28年10月)

〈発表・報告〉村上義直「片貝家ノ下遺跡の概要」2016年度 東北史学会 秋田大学

〈発表・報告〉安田 創「縄文時代のアスファルト」2016年度 東北史学会 秋田大学

〈発表・報告〉高橋 学「律令地域の動態① 雄物川流域」「北東北9・10世紀社会の変動 研究報告資料集」日本考古学協会2016年度弘前大会実行委員会

〈報告〉高橋 学「律令地域の動態① 雄物川流域」「日本考古学協会2016年度大会研究発表要旨」日本考古学協会

〈発表・報告〉高橋 学「秋田県北秋の蝦夷社会」「平安時代の北秋蝦夷社会」北東北歴史懇話会大館市中央公民館

〈発表・報告〉加藤朋夏「報告4 秋田県」「シンポジウム 縄文時代のアスファルト利用」いのちへ文化・芸術N P O（主催） 御所野縄文博物館（共催） アスファルト研究会（協力）

（平成28年11月）

〈報告〉山村 剛 「峰吉川中村遺跡」『木簡研究』第38号 木簡学会

〈報告〉赤星純平・伊豆俊祐 「西板戸遺跡」『木簡研究』第38号 木簡学会

〈報告〉村上義直「大館市片貝家ノ下遺跡の確認調査－火山泥流堆積物に埋もれた平安時代の集落－」『遺跡学研究』第13号 日本遺跡学会

〈論文〉高橋 学「城柵と北東北の鉄」『北方世界と秋田城』六一書房

（平成29年2月）

〈発表〉村上義直「片貝家ノ下遺跡の概要」『国際教養大学文化遺産フォーラム2017』国際教養大学  
〈紙上報告〉村上義直「片貝家ノ下遺跡」「第43回古代城柵官衙遺跡検討会資料』 古代城柵官衙遺  
跡検討会

（平成29年3月）

〈論文〉赤星純平「後期旧石器時代初頭における磨製石斧の形態と破損について」『安蒜政雄先生退  
職論集』雄山閣

〈発表・報告〉加藤朋夏「秋田県の遮光器土偶」『第14回土偶研究会 青森大会』土偶研究会

〈報告〉加藤朋夏「報告4 秋田県」「シンポジウム 繩文時代のアスファルト利用－記録集－」い  
ちのへ芸術・文化NPO

## 6 運営協議会

【第1回】 平成28年6月15日(水)

委 員：石郷岡誠一委員（委員長）、根田好倫委員、須田喬委員、山崎裕子委員、中山厚子委員、  
工藤侃委員、高橋秀夫委員（名簿順）

事務局：櫻田所長、高橋副所長、柴田総務班長（進行）、谷地中央調査班長、大森資料管理活用班長、  
工藤学芸主事（記録）

会議冒頭の所長挨拶では、協議案件である「あきた埋文の利用拡大について」のテーマ設定理由を  
説明した。以下、要旨。

今後の埋蔵文化財センターを展望すると、これまでの膨大な発掘調査の成果を県民に広く伝える、  
そのことをもって、ふるさとに対する愛着を涵養することや地域の活性化に資することが、大きな使  
命の一つになるとを考えている。埋蔵文化財の保護のための、発掘調査の実施が第一の使命ではある  
が、埋蔵文化財の活用を通して、県民文化の向上を図ることもまた重要となる。そのためには、資料  
活用事業の充実が不可欠であり、事業の充実度を測る指標の一つは、講演会や展示会への参加・来場  
者をはじめ、児童・生徒のセカンドスクール利用等を含めた、埋蔵文化財センター全体の利用者数で  
あると考えた。あきた埋文としては、県民の歴史や考古学に対する興味関心を喚起する事業、県内の  
埋蔵文化財と県内外、日本の歴史についての理解を深める事業、そして、秋田県の歴史や埋蔵文化財  
からふるさとの現在と未来を考える事業という観点から、「あきた埋文の活用事業」というブランド

を、築き上げていきたいと考えている。本日はこれから提示する5つの資料（活用事業別の参加者数、平成28年度4・5月センター利用者と昨年度との比較、企画展テーマ一覧、古代発見バスツアーコース一覧、秋田大学COC事業発表概要）から、これまで当センターが取り組んできた活用事業の推移や各種データをご覧いただきまして、様々な角度から、ざっくばらんに、センターのあり方、事業全般にわたってご提言をいただければありがたいと思っている。そして、来年度の事業企画に際しては、いただいたご提言を、大いに参考にしてまいりたいと考えている。

統いて、事務局から平成28年度事業計画についての報告、企画展及び館内の施設見学を経て、協議「あきた埋文の利用拡大について」に入った。委員からの主な提言については次の通り。

- ・あきた埋文のホームページを見たところ年間平均1万5千人がアクセスしていることが分かった。関心のある人をとらえる指標となっている。
- ・あきた埋文の発掘した遺跡に興味関心がある県民は多くいる。その案内板や標柱がないと見つけるのは難しいので、整備できないものだろうか。QRコードなどを設け、スマホ等で詳しい説明を受けられるようにしてほしい。
- ・ホームページの活用について話題になっているが、夏休み中の企画もすぐアクセスできるようにしてもらいたい。
- ・貸し出し可能な自転車の整備も魅力的である。無料貸し自転車ブームでもあるので検討の余地があるかもしれない。
- ・センター研修室を貸部屋として利用していただくのは難しいと思うが、研修会等の利用拡大をすすめて欲しい。
- ・地域振興局ではドローンが1台あるので、活用方法があれが考えていただきたい。また、大曲の花火の週に、花火weekとして取り組みができるだろうか。トイレ利用者が多い大曲技術専門校でブースを開き、展示するとか宣伝をするなど利用者を増やす方策として何かできそうだ。
- ・インターネット活用で、遺跡をCGで復元し、創造性を育む事はできないだろうか。遺構を見ると私は穴にしか見えないので、子どもたちのために何か工夫できないだろうか。
- ・新しいことを取り入れていく時代になっていると感じる。
- ・様々な所で、より詳しい説明をしてくれるガイドが増えている。センターでもできないだろうか。新しい発見を求め、行ってみたい、知りたいと思う人が多くいるのでバスツアーなどにも参加すると感じる。「ふるさと検定」等もあるので、「あきた埋文検定」なるものも設定できないか。
- ・払田柵のお祭りなどとタイアップできれば充実するのではないだろうか。
- ・郷土史という観点から、離れていても他地域の様子が分かる企画展の内容は活用の可能性が大きいと感じる。
- ・今後も市町村教育委員会と共に催して土器づくり等行ってもらいたい。
- ・SNSの活用も大いに検討していく時代であり、施設の活用についても充実していきたい。「あきた埋文の利用拡大」は秋田に多くの人を呼び込む観光財産にもなり得る。

【第2回】 平成29年2月8日（水）

委 員：石郷岡誠一委員（委員長）、根田好倫委員、須田喬委員、中山厚子委員、高橋秀夫委員  
(名簿順)

事務局：櫻田所長、高橋副所長、柴田総務班長（進行）、五十嵐調査班長、谷地中央調査班長、  
大森資料管理活用班長、堀川学芸主事（記録）

会議冒頭の所長挨拶に引き続き、石郷岡委員長の司会により、協議が行われた。案件は、

- (1) 平成28年度事業報告
- (2) 平成29年度事業計画（案）について
- (3) 平成29年度に向けて委員からの提言

各委員からの主な提言は次の通り。

- ・難しいかもしれないが、冬場の来館者数を増やす方策を考えてほしい。
- ・払田柵跡や世界文化遺産関連のビデオ等の映像があれば子どもたちも喜ぶのではないか。
- ・展示場所として、あきた埋文への誘導や宣伝も兼ねて県仙北地域振興局内にも展示できないだろうか。来所者も多いので、検討していただきたい。
- ・観光パンフレットとして20頁程度のトレッキングガイドがある。県内10数か所の見学スポットや巡回コースがわかりやすく示されており、非常に人気があった。遺跡等に足を運んでもらうためには、報告書では一般の人にはなじみがないので、トレッキングガイドのような解説やコースなどがわかりやすく示されているものがあればPRする方法の1つになると思う。
- ・「笑う岩偶づくり」など体験活動は、いろいろなイベントで労力をかけずにできるものなのか。そして作成するセットがあつて体験するための素材が用意されているのであれば、観光のPRで展示物を出すときに来場した人に体験してもらう取り組みもできるのではないか。
- ・大仙市ではサケ（鮭）を地域の資源として商品化しようとする動きがある。そのときに石器や土器に似せた製品（箸置きなど）をレストランや商店街などに提案できるのではないか。
- ・省スペースでもいいので、学校での展示ができるないものか。
- ・今後も数年に1度は近隣の県外との共催事業を計画してもいいのではないか。例えば、バスツアーも道路事情もよくなってきてることから、岩手県や山形県、青森県などの遺跡や文化財を見学コースとして検討してみてはどうか。
- ・外部講師による事業について、テーマと内容によっては埋蔵文化財センターの職員も講師に加わるようにしてはどうか。『研究紀要』や『年報』などいろいろな形で発表されているとは思うが、その人が持っている専門性や知識を広くPRしていくという意味でも検討してほしい。

## V 平成28年度研修事業

### 1 研修受け入れ

#### (1) 博物館実習

実施日：7月4日（月）～7月10日（日）

研修者：盛岡大学文学部4年生2名

#### (2) 教員10年経験者研修

実施日：8月1日（月）～8月3日（水）

研修者：県立横手高等学校教諭1名

実施日：8月9日（火）～8月12日（金）

研修者：大仙市立大曲中学校教諭1名

#### (3) 高校生職場体験（インターンシップ）

実施日：7月25日（月）～7月27日（水）

研修者：県立大曲工業高等学校電気科2年4名

実施日：8月1日（月）～8月3日（水）

研修者：県立大曲高等学校2年1名

### ※堤沢山遺跡発掘調査への由利本荘市職員の研修

実施日：7月4日（月）～8月24日（水）のうち19日

研修者：由利本荘市教育委員会文化課主任 板垣俊一

### 2 職員研修

#### (1) 職員技術研修会

##### 「学術調査の方法と応用」に関する研修

平成28年度の職員技術研修会は、7月29日（金）に払田柵跡調査事務所の協力のもと、史跡払田柵跡を会場として、「学術調査の方法と応用」をテーマに実施した。昭和49年の事務所開設以来、今年度で43年目となる払田柵跡の学術調査は、第9次五年計画の3年次、第150次調査を数える。事務所では第8次五年計画以降、長森南側に広がる冲積地の調査を計画的に進めており、今年度の調査区は南大路の西側、外郭南門南東官衙域に西接する沖積地となっている。ここ数年の調査で外郭南門の南側に微高地が広がることが確認され、その外側に沿うように盛土整地されていることが明らかになってきている。今年度の調査は、第148・149次の調査で確認された、微高地部の高さに合わせ低地部を補整するよう広がる盛土整地の範囲及び性格の解明を目的としている。

払田柵跡調査事務所で行われる学術調査では、調査にあたり仮説（調査目的）を設けるとともに、それを検証するために必要な調査方法を立案することから始まる。調査の実施にあたっては、日々得られる調査成果を逐次検討しながら調査方法に反映させ、検証と総括を行ったうえで年報（概報）としてとりまとめられる。これらの調査成果は一定の範囲を数か年継続調査したうえで総合化され、テーマを持った総括報告書（正報告書）としてとりまとめられる。一方、埋蔵文化財センターの本調

査（行政調査）では、工事範囲に係る調査区を全面調査する方法がとられるため、悉皆調査に基づき帰納的に成果を総括し、調査終了後に発掘調査報告書としてまとめられる。

このように調査成果の積極的な把握・理解による仮説及びそれを検証するための最小限の調査など、学術調査的な思考は、行政調査の本調査実施のみならず、試掘・確認調査においても有効な方法論となることから、事務所による史跡払田柵跡学術調査の方法と解釈等について、研修を実施した。

研修には、当センター職員16名、県教育委員会生涯学習課文化財保護室5名の他、県内市町村の埋蔵文化財担当者3名が参加した。

払田柵跡調査事務所の宇田川浩一副本主幹（兼）調査班長から遺跡の概略及び調査の歴史、及び第8次五年計画以降の沖積地調査の成果概要について説明の後、3班に分かれて3か所の土層観察をもとに各班内で遺構の成り立ちや前後の環境等について議論し、合評会形式でそれぞれの解釈を試みた。最後に宇田川副本主幹が現時点における事務所としての解釈及びその根拠について説明したが、取り入れるべき新たな視点も散見され、双方に有意義な研修となった。

#### （2）文化庁主催平成28年度第1回埋蔵文化財担当職員等講習会への参加

9月7日（水）～9日（金）の3日間にわたり、秋田市の秋田拠点センターアルヴェを会場として、文化庁主催の埋蔵文化財担当職員等講習会が開催された。1日目は「埋蔵文化財保護行政の現状と課題」及び「日本における水中遺跡保護の在り方について」と題し文化庁調査官から講義を受け、2日目は「埋蔵文化財行政と地域研究」について4名から事例報告があった。

この講習会に参加し、職員研修にあてた。

#### （3）防災・避難訓練、交通安全講話【本所・中央調査班】

実施日：平成28年4月28日、12月21日（交通安全講話／中央調査班）

実施日：平成28年5月10日、12月8日（交通安全講話／本所）

実施日：平成28年6月24日、（防災・避難訓練／中央調査班）

実施日：平成28年6月29日、（防災・避難訓練、AED操作講習／本所）

## VI 職員名簿

職　　名	氏　　名
所長	櫻田博憲
副所長	高橋　学

### 總務班

副主幹（兼）班長	柴田真希
主査	齊藤憲治
主査	武藤靖
主任	今田陽子

### 調査班

主任学芸主事（兼）班長	五十嵐一治
（兼）副主幹	宇田川浩一
学芸主事	山村剛
文化財主査	加藤朋夏
文化財主事	赤星純平
文化財主事	富樫那美
文化財主事	乙戸崇
文化財主事	小山美紀
文化財主事	安田創

### 中央調査班

主任文化財専門員（兼）班長	谷地薰
主査	鈴木菜穂子
副主幹	村上義直
学芸主事	関向昌之
文化財主査	利部修
文化財主任	山田祐子
文化財主事	巴亜子
非常勤職員	泉明

### 資料管理活用班

主任学芸主事（兼）班長	大森浩
学芸主事	小徳晶
学芸主事	工藤伸也
学芸主事	堀川昌英
文化財主査	榮一郎

秋田県埋蔵文化財センター年報35  
(平成28年度)

発 行 平成29年6月

秋田県埋蔵文化財センター

〒014-0802 大仙市払田字牛嶋20番地

電 話 (0187) 69-3331

F A X (0187) 69-3330

[URL] [http://www.pref.akita.jp/  
gakusyu/maibun\\_hp/index2.htm](http://www.pref.akita.jp/gakusyu/maibun_hp/index2.htm)



